

広報
第8号

上野東部だより

2008年3月31日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘本町1681-8
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999



東部地域住民自治協議会

<スローガン> 『安全』『安心』で快適なまちづくり

【ロゴマーク】

「東部地区のみなさんが手と手をつなぎ心を一つにして発展していくよろいイメージました。」

作者：伊賀市立緑ヶ丘中学校美術部、2年生

お知らせ！

… 悪徳商法についての注意」と 地誌発刊のお知らせを更新しました。

東部公民館

- 事務局
- 総務広報部会
- 健康福祉部会
- 環境保全部会
- 教育文化スポーツ部会
- 防災防犯交通安全部会
- 人権啓発部会
- 産業振興部会



三重県警

- 三重県防災危機管理
- 防災ボランティアみえ
- 警視庁一
自主防犯ボランティア
- 伊賀市ホームページ
- 伊賀市役所／
住民自治協議会について

リンク

更新年月日：平成20年3月14日

あなたは、 888888 番目の訪問者です！

《お問い合わせ先》 事務局：上野東部地区市民センター内
電話：24-3999
Eメール：tobu-c17@ict.ne.jp

Copyright (C) 2008.1.4 伊賀市 東部地区市民センター. All rights reserved

東部地域住民自治協議会のホームページを開設

この度、念願でありました「東部地域住民自治協議会」のホームページを開設し、平成20年2月末日から情報を発信しています。

自分たちの住む地域をより住みやすくするには「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識を地域に暮らす住民の皆さんに持っていただく必要があります。住民自治協議会はこうした地域の取り組みを、住民の皆さんにホームページを通してタイムリーに情報を提供し「地域密着」として機能することにより、住民の皆さんのが自分たちの地域に誇りと愛着が持てるのではと考えています。

<ホームページアドレス>

<http://www.ict.ne.jp/~tobu-c17/>

<お問い合わせ先>事務局：上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999 Eメール：tobu-c17@ict.ne.jp

実行委員会(部会)の活動報告

人権啓発部会

日本人と外国人 音楽とおしゃべりで 交流したよ!

東部地域には、約1300人（人口比約11%）の外国人住民が暮らしています。今年度は、音楽活動やおしゃべりを通して、日本人住民と外国人住民が、お互いに交流を始められるような事業を企画・実施しました。

■「世界の音楽祭」

日 時 平成19年11月24日（土）14:00～17:00

場 所 緑ヶ丘中学校体育館

出演者 「S2C インターナショナル」「オリエンティ」「ボニエンテ」「ウシャコダ」

多国籍のメンバーによるバンドの演奏を楽しみました。

バンドと一緒に手拍子をし、中には踊りだす参加者もいました。



■「外国人の人と話そう」

日 時 平成20年2月17日（日）13:30～15:30

場 所 上野東部公民館

コーディネーター 伊賀日本語の会代表 菊山順子さん

ゲスト 東部地域在住の外国出身の方3名

参加者 67名



伊賀市の外国人についてのクイズに答えたり、外国人ゲストの方に来日後の感想などをお聴きしました。その後、ゲストを含む11名の外国の方と日本の方が6テーブルに分かれ、韓国のチヂミ・ブラジルのチョコ菓子・ペルーの紫トウモロコシジュースなどをいただきながら、歓談しました。



参加者の声

- ・今回が初めてでしたが、こういう催しは、色々な文化を学べ、未来につながると思います！！
- ・外国の方がどう思っているのか、わからなかつたが、生の声がそのままきけてよかった。外国からみた日本の欠点の指摘にはどきりとさせられた。鋭い意見だと思う。
- ・すごくよかったです。こういう会がたくさんあってほしいですね。お菓子もおいしかったです。



まちづくりの主人公は住民です！

～先進地に学んだ環境保全のまちづくり～



軽油に比べて有毒なガスが少なく、排出する二酸化炭素はなく、菜の花の生長時に吸収しているので環境にやさしい燃料といえます。公用車の燃料や道の駅の冷暖房に使用しているとのことでした。参加者はてんぶら油で車が走るという説明に驚いていました。

廃食用油から作られた、BDF（バ
イオ・ディーゼル・フューエル）は、

①菜の花を育て



②その油で料理を



③その廢油で車を走らせる



排出された二酸化炭素を菜の花が吸収するという持続可能な生き方を目指す取り組みです。

あいとテコニテナサ菜の花餃は、菜の花プロジェクトの取り組みで知られ、全国から注目されています。

11月22日(木) あいにくの雨の中、「あいとうエコプラザ菜の花館」と「近江八幡」を訪ねました。

旧愛東町には人口5700人の農林業地帯です。地域の特性でもある豊富な地元農産物を直売する道の駅は、遠くからも買い物客が訪れ、近畿一の売上高を誇っています。

A photograph of a narrow, calm canal running through a traditional Japanese town. The canal is flanked by stone walls and wooden buildings with tiled roofs. A small, dark boat is visible in the water. The scene is framed by trees and foliage in the background.

として栄えました。その堀沿いには、多くの倉が立ち並び昔の繁栄が偲ばれます。しかし、その堀もヘドロが悪臭を放ち、埋め立てられようとした時期があつたそうです。ここ近江八幡でもまた、地域住民の運動により修復されました。今日の美しい姿が取り戻されたのだそうです。『自分たちの町を美しくしたい』という住民のつながりが、重要な化的景観全国第一号の選定を受けることへの大きな原動力になつたのだと思

二つの町を訪ね、地域の特性を生かして、またまちづくりをすること、住民のつながりが大切なこと、そして、まちづくりの主人公は住民であることをあらためて感じました。

みなさんも、環境保全のこと、東部地域のまちづくりのことを一緒に考え取り組んでみませんか。東部地域の

みなさんのご協力をお待ちしております。

り）をホランテ・アカデミーの方の案内により見学しました。八幡堀は琵琶湖に通じる運河で、かつては流通の拠点

未来を見据え、住民参加のまちづくりを！

～松阪市まちづくり協議会との交流会を開催～

昨年度に引き続き、2月3日（日）嬉野中川コミュニティセンターで交流会を催しました。

松阪市からは七つのまちづくり協議会から約50名が参加。東部は各部会から25名が参加し、全体会とテーマ別に5分科会に分かれて討論、勉強しました。

企画した総務広報部会員が第1～第4分科会、第5分科会は宮田淳さんに感想を寄せてもらいましたので紹介します

第1分科会 「いまなぜ まちづくりなのか」 …… 薮 中 満

この分科会では、まず、各地区での問題点や活動の成果を出し合うということで東部自治協服部団地の辻井さんから10月6日の防災訓練をきっかけに、服部団地での「見えない境界線」を越えて、互いに住民同士で気楽に話ができるようになってきたという報告がありました。これを受けて掃水（ていすい）協議会の久瀬さんより掃水では今『あいさつ』が、問題になっているという話が出されました。

それは、大人からの挨拶に対して子供たちから挨拶が返ってこないというものです。各地区の方々も同じように感じていましたが『大人がまず見本を示すべき』とか『家庭教育の問題だろう』との声もありました。しかし、『あいさつ』がない、できないというのは表に見える形であって、根本は地区内における人間関係が同年齢の横のつながりだけで縦のつながりがないということなのです。そしてこのことが、まちづくり運動を困難にしている要因の一つであるというものです。

では、どうしたらいいのか？実際にまちづくり運動や自治協は高齢者が多く、継続した運営が困難になっています。具体的にもっと若い層の方が参加したくなるような複合的な行事などが必要であろうと話し合われました。

最後に、東部自治協環境保全部会で若手としてがんばっている松原さんの「今、自分がまちづくりに参加しているということが実感できてとても楽しい」という言葉が大変印象的でした。



第2分科会 「協議会活動を発展させるには」 …… 花 本 公 子



2月3日は、雪が積もって肌を刺す寒い朝でした。いろいろな人の話を聞いていて、たとえ住民が良い考えを持っていても人が集まらないこと、人任せにしていることがまちづくりのネックになっていると思いました。

まちづくりといっても農村部、山村部でのご苦労は大変なものです。それに比べるとまち中で生まれ育つて今日に至った自分を思うと上野の中の一人であることに感謝しています。

第3分科会 「全員参加のまちづくりを目指して」 …… 福森 博

各協議会から活動の内容が報告され、私たちの住む東部地域の活動とほぼ類似しているものの、世帯数、人口、産業形態が異なり、特に過疎地の多い協議会から全員参加の夏祭りや盆踊り大会を催しても参加者が少なく、他地域に参加者を求め、活動を四苦八苦しながら運営しているとの悩みを聞かされました。人口の多い少ないに関係なく、人集めがいかに難しいかを痛感させられました。



どの協議会とも共通して言えることは、若い世代のやる気のあるリーダーの発掘と組織の強化、住民の意向を踏まえたうえで、全員参加ができる活動を長年に取組むことが、将来のまちづくりの発展と成果につながることではないかと感じました。

第4分科会 「高齢化社会におけるまちづくり」 …… 田中 孝

今回の交流会に参加して、高齢者があらゆる行事に積極的に参加し、活動の分野を広げていかなければならぬと感じました。

個人の趣味を生かした、運動・社会参加活動に取組み、一日いちにちを大切に、楽しく暮らすことが大事かと思いました。



第5分科会 「安心安全のまちづくり」 …… 宮田 淳（防災防犯交通安全部会長）

飯高町地域では、「限界集落」と称されていますが、各部会活動においては住民の積極的な参加とともに、汗をかき、連帯感を高め協働で地域づくりを目指しているとのことでした。

小学生（3年生のみ）の同乗した防犯パトロール活動とか、小・中学生による消火器を使用しての体験、炊き出し実習によって、子どもたちの喜びと興味を沸き立たせることで、地域の活性化の一役となれば防災防犯活動の成果と考え、更なる安全安心の地域づくりの実現に向け努力しているとのことありました。



なお、分科会を終えて、当地域の防犯活動に小学生を同乗させた防犯パトロール活動など、将来に目を向けた地域づくりの取り組みをしていく上で参考になりました。

東部地域住民自治協議会防災訓練に参加して、服部団地が大きく動きだしました。

私達が暮らす服部団地は、伊賀市役所から見て北東部地区に位置しています。

世帯数二百十一世帯あり、雇用促進住宅五階建て、県営住宅四階建てがあります。もし災害が発生した時にどのような動きが出来るのか。

今まで一度も訓練がなされていませんでした。

10月6日の防災訓練当日は、子供会・役員・自主参加者など60名が参加し防災に対する関心度の高さを伺いました。この防災訓練のお陰で、県営住宅へは、各階へ消火器の設置を県からして頂き、自治会では、テント・鍋・ヤカン・釜等 万が一のために準備品を整えることが出来ました。

また、当自治会から防災訓練に参加していただいだ方々に、今回は、「氷砂糖」「軍手」「スリッパ」「傷テープ」等を入れた防災袋を配布しました。今後、防災訓練を通じ中身を充実し「災害時の防災袋」として、活用して頂く準備をしています。

参加者からは、年に一度はこのような訓練をす

る必要があるのではと貴重な意見を聞くことも出来ました。自分一人では出来る事が限られてきますが、住人一人ひとりが力を出し知恵を出し合う事で安心安全を確保でき、住民みんなで作り上げて行く良い街が出来る事を確信しました。

【ひとつあると安心な非常持ち出しリュック】

日本各地で地震や台風による自然災害がまた多くなってきました。

神戸や新潟で起きた大地震も、もはや他人事ではないと思います。

しかし、本当に大切なのは、「被害予想」ではなく、「発生したときどうするのか？」です。

みなさんの家には、防災グッズなどはありますか？

「非常持ち出し袋には、最低これだけは必要です」

救急箱・懐中電灯・ライター・缶切り・ロウソク・ナイフ・衣類・手袋・哺乳瓶・インスタントラーメン・毛布・FM文字多重放送受信機能付ラジオ・食品・防災ruz・電池・水・スリッパ



アライグマが出没しているかも
えています。天井裏、屋根裏、床下などで、ガサゴソと大きな音が聞こえるときは、そこに巣を作っている可能性があります。また、夜行性の動物ですので、夜半に犬が盛んに吠えたときは自宅周辺に出没しているかもしれません。

アライグマは、特定外来生物に指定されている動物で、獣友会のご協力をえて捕獲しえなければなりません。目撲したら速やかに自治会長に申し出てください。

繁殖期の成獣は、より気が荒くなつて、危険ですから近寄らないことです。人に感染するアライグマ回虫症、狂犬病を持つている場合があります。十分ご注意ください。

アライグマに注意!



松阪市のまちづくり協議会との交流の中で、旧飯高町のまちづくりの方々が、仕事の忙しい時に住民同士相互に労働力を提供しあう「結い」(ゆい)を保つことができず「限界集落」となりつつあることに大変な危機感を持っておられました。

わたしの住む農人町でもかつての人のつながりが希薄になり、知恵や力を持ち寄つて物事に取組むことが後退しているように思います。

わたしは交流会の席上、市街地における「新しい限界集落」(都内における限界集落)への移行が始まっています。そこではと発言しましたが、自治協議会は、そんな現状を直視しながら未来を切り開いていく必要があるのだとはと思いま